

## ブラックミュージックのビートと変拍子のJ-popへの導入

音楽班:渡邊 港 荒川 綜太

### Abstract

We researched features of pop music that many Japanese people listen to now and brack music produced in America to seek common points of them, possibility of combination of them, and how to bring change of rhythm in now music by focusing how to count of rhythm, sound of drums, and so on in several musics. As a result, we concluded that there are certain features of beats in the elements, and minute rhythm and making the border of beat obvious are hints of bringing.

### 要約

我々は、現代日本で流行しているポップスジャンルの楽曲たちと、アメリカを起点に一つのジャンルとして確立した黒人音楽に共通点と、2つのジャンルの融合の可能性、そしてさらに現代流行している変拍子の性質と導入を探るために、具体的な楽曲を取り出して、リズムの刻み方、ドラムのサウンドに注目して特徴をまとめた。その結果、これらの要素にはビートに確かな特徴があり、細かなリズムとともに、拍子の境界を明確にすることが導入の手がかりになると結論付けた。

### 1. はじめに

以前からj-popとは異なるリズム感覚の音楽に興味を持っており、それらの楽曲のリズムは近年のj-popと少し共通する所があると感じた。そこで、本研究は変拍子とブラックミュージックの2つに焦点を定め、ブラックミュージックのビートの共通点や変拍子の規則性を発見し楽曲制作に応用することで理論的に特徴的なリズムを作成することを行い、現代のJ-popの要素を抽出し、楽曲を作成してリズムの要素をあてはめていく。本研究ではブラックミュージックを1947年以降(通称R&B)と定義する。

### 2. 研究手法

本研究ではR&B、変拍子それぞれに当てはまる楽曲を視聴し要素や用法を調査した結果から一つの楽曲を作成することで新たな音楽ジャンルをめざし、またどういった音楽要素がジャンルや曲としての安定要素を生み出すかを導き出す。

《実験1》

①マイケル・ジャクソンの楽曲「Love Never Felt So Good」の曲調やビートについて独自の目線で調査する。

②日本のアーティストの中でブラックミュージックの要素を取り入れている星野源の「Ain't Nobody Know」,Shin Sakiura feat.AAAMYYY「NIGHT RUNNING」について①の楽曲と比較しまとめる。

③よりJPOPに近づけるため、suchmosの「STAY TUNE」についてコード進行に重きをおき調査する。

《実験2》

①変拍子の代表曲Sting「Seven Days」伊福部 昭「ゴジラのテーマ」等についてリズムの刻み方、基準を調べる。

②同じようなリズムの基準を持つ曲で分類し、性質の類似性を調べる。

③調査した結果をまとめる。

### 3. 結果

《実験1》

①では、ビートに16部音符や8部音符を使いドラムを乾いた音にすることでブラックミュージックに近

づけることがわかった。また、②においてJ-POPと組み合わせる時はダウンテンポにすることでブラックミュージックの要素とマッチしやすいことがわかった。

#### 《実験2》

先行研究の通り、どの曲も2拍子と3拍子で構成されていることがわかった。

また、その構成を明らかにするため、細分化したときの拍子のはじめには基準を明らかにする目印となる四分音符や、最も音高が低いバスドラムの音を用いていることがわかった。

## 4. 考察

これらの2つの実験を通してダウンテンポの曲調に細かなビートを差し込み、小節のはじめにバスドラムを入れ、乾いた音のするスネアを用いることで、ブラックミュージックと変拍子をJ-POPに導入することができる考える。

## 5. 結論

今回はブラックミュージックと変拍子の規則性を発見し、それをJ-POPへ導入するという点について研究した。その結果、これらの二要素はドラムの音をブラックミュージックに近づけダウンテンポにすることでお互いを殺すことなく楽曲にすることができる。また、変拍子は小節の1拍目を明らかにするためバスドラムを入れる事でダウンテンポの曲でもビートを感じられるようになる。近年様々な新しいジャンルの曲が増えていく中で、この二要素はそのなかの一つであり楽曲が新しい方向に行く鍵となるだろう。今後の展望として、J-POP側の調査をあまり行っていなかったのもそちらがわに舵を切り研究していけたらと思う。

## 6. 参考文献ならびに参考Webページ

岩本裕子 (2019) 『アメリカ黒人音楽の源流をたどる』<https://www.urawa.ac.jp>